

3年生学年だよ

令和元年（2019）年5月27日

第10号

吹田市立第二中学校第三学年

修学旅行時のマナーについて

新聞記事で、こんな内容を見つけました。紹介します。

「通路にごみがひとつもなく大変驚きました。」「大変きれいにご利用いただき感激した。」こんな文面の一通の封書が1月下旬、毛呂山町立川角中学校（毛呂山町川角、生徒数369人）に届いた。差出人は、東京駅で新幹線車両の清掃業務を担当する会社の女性社員。同校の2年生が修学旅行で東海道新幹線を利用した際、生徒らの行き届いた清掃に感激した女性からのお礼だった。大里治泰校長（54）は「30年間の教師生活で初めて。当たり前のことをやって、それを認めてくれる人がいることに感謝の気持ちでいっぱいです」と話している。

送付された手紙は便箋2枚。「貴校に利用いただいた車両の清掃を担当した者です」と始まり、車両にごみがなかったことに触れ「貴校の普段の教育ならびに引率教員の方の行き届いた指導を、生徒の皆さまがよく理解され、大変きれいにご利用いただき、感激した」とつづられている。

封書には、「見ると幸せになれる」という都市伝説のある東海道新幹線の軌道を検査する車両「新幹線電気軌道総合試験車（愛称・ドクターイエロー）」の写真も同封されていた。現在「ドクターイエロー」の写真は2年生の教室前の廊下に貼り出されている。

同校によると、2年生123人は1月20日から22日まで2泊3日の日程で、京都・奈良に修学旅行した。最終日の22日は清水寺などを見学した後、京都駅から午後1時6分発の「のぞみ」に乗車。同3時23分に東京駅に到着した。

生徒らは東京駅で降車する際、用意したゴミ袋にゴミを入れ、椅子は元に戻すとともに、ヘッドカバーを張り直し、床に落ちたお菓子などのゴミを拾った。ゴミ袋はまとめて車両の出入り口脇に集めた。同校ではあいさつなど5項目の達成目標を設定し、指導している。ただ、大里校長は「車両のゴミを持ち帰る指導はしていない」と話す。

修学旅行の実行委員長を務めた斉藤望さん（14）は「思い出に残るイベントにするため、マナーを守ることを目標にした。車両のゴミは実行委が率先して片付け、周囲の生徒らも協力してくれた。自分たちで実行したことに感謝され、最高の思い出になった」と喜んでいる。

大里校長は「使命感を持って行ったことが評価され、生徒らは自信がついたように見える。生徒の良さと取りえを伸ばすためにプラスのスパイラルになってくれれば」と目を細めている。



実行委員の生徒達も立派ですが、周囲の生徒も協力して取り組んだところが素敵ですね。ゴミを拾ってまとめたり、いすを直したりという行為自体は、個人で行うことはそこまで難しくありません。しかし、これらを集団で行うのは、それぞれが自覚を持って行わなければならないので、かなり大変です。

生徒側も、目標を達成できたことに加え、感謝されることで、今後もこういったマナーを守っていくモチベーションを得たのではないのでしょうか。



一方でこんな記事もありました。

被爆者に「死に損ない」

修学旅行で5月に長崎市を訪れた横浜市立中3年の生徒が、長崎原爆の爆心地近くを案内した被爆者の森口貢さん(77)に「長崎市に『死に損ない』などの言葉を吐いていたことが分かった。森口さんは『私は死に損ないではない。一生懸命生きてきた。大変悲しい』と同中学に手紙で抗議。校長が電話で謝罪した。

森口さんは8歳の時に入市被爆し、被爆者らで作る「長崎の証言の会」の事務局長。森口さんによると、同中学3年の生徒

手紙で抗議 横浜の校長謝罪

119人が長崎を訪れ、同会は爆心地近くを案内するよう依頼を受けた。5月27日、平和公園で事前に生徒たちに会の趣旨などを説明していたところ、騒いで話を聞かない生徒がいたため注意した。

その後、約10人の班に分かれ、森口さんがうち1班を爆心地から約700メートルの山里小へ案内したところ、班外の男子生徒数人が森口さんに「死に損ないのくそじい」と罵声を浴びせた。別の生徒たちにも「手をたたけ」とはやし立て、森口さんの説明を邪魔した。引率の教師が注意したが止められなかった。

森口さんは「平和学習の前に、子供たちの人を思いやる気持ちを育てていただきたい」などと書いた手紙を同中学に送った。学校によると、森口さんが説明していた際、私語を続けていた1人の男子生徒に「聞く気がないなら出て行け」など何度も叱る場面があり、生徒は退席させられた。暴言を吐いた男子生徒らは「そうしたやり取りに腹が立った」と話している。校長は「自分たちの発した言葉が森口さんにとってどれほどつくづく悲しい言葉だったのかを伝え、反省を促していきたい」と話している。

修学旅行の大きな目的の一つが、平和学習です。

1年生では、沖縄戦の歴史について学び、「さとうきび畑の唄」を見ました。

2年生では、当時中学生や高校生の年齢の子どもたちまで、学徒隊として沖縄戦にかり出され、命を落としたり、悲惨な体験をしたりしたことを学びました。映画「ひめゆりの塔」を見て、改めて戦争の悲惨さを感じた人も多かったですね。

3年生では、映像で、実際に沖縄戦を体験した方々の証言や思いを聞きました。SISA 平和セレモニー係を中心に、千羽鶴作りも進めています。

バスガイドさん、ガマの平和ガイドさん、民泊やホテルの方々、そしてタクシー研修の運転手さん。この修学旅行では、たくさんの方々と接し、お話を聞く機会があります。

あなたたちは、この2つの記事を読み、どんなことを感じますか？

自分たちも、関わってくれた人たちも、みんながいい修学旅行だったと思えるように、私たちは何を大切に心がけて修学旅行にのぞみますか？